

Q&A

肛門痛で発症した下部直腸の腫瘍性病変

【問題】

症例：60歳，男性。

既往歴：虫垂炎（手術），甲状腺癌（手術）。

家族歴：特記すべきことなし。

現病歴：1カ月前に肛門痛が出現し，近くの肛門科を受診した。下部直腸に腫瘍性病変が認められたため，精査・加療目的にて当科を紹介受診した。

現症：体温，血圧は正常。直腸指診で肛門管直上の下部直腸左壁に粘膜の膨隆を触知し，圧痛を認めた。

血液検査所見：WBC 5800/ μ l，Hb 12.4g/dl，

CRP 1.84mg/dl，CEA 1.7ng/ml，CA19-9 15.1U/ml。

画像所見：骨盤MRIと18F-FDG PET/CTの所見をFigure 1, 2に示す。下部消化管内視鏡検査では下部直腸左壁に粘膜下腫瘍様の膨隆像を認めたが，粘膜面の異常を認めなかった。

生検病理所見：経直腸的に行った針生検の病理組織所見をFigure 3に示す。

臨床経過，画像所見，病理所見から考えられる診断は？



Figure 1. 骨盤MRI所見.

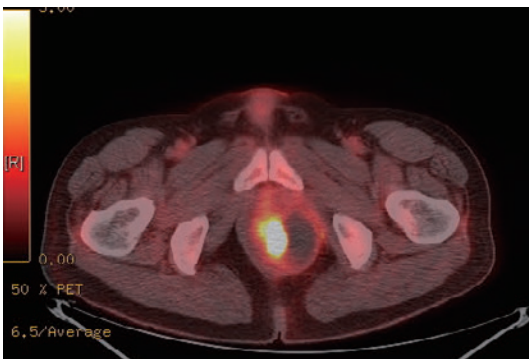


Figure 2. 18F-FDG PET/CT所見.

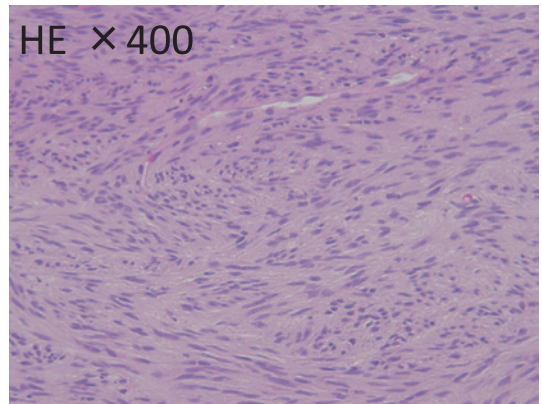


Figure 3. 針生検の病理組織所見.